

番組審議会

第692回

2025年4月21日

■ 審議会の構成

出席委員数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委 員 川喜田 尚 田 中 東 子

谷 本 歩 実 洞 口 依 子

長 嶋 有 二 関 辰 郎

水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ 龍 宝 社 長

合 田 専 務

井 上 取締役

三 城 コンテンツ戦略局長

平 田 コンテンツ制作局長

飯 田 「御上先生」プロデューサー

藤 田 編成考査局長

浜 崎 カスタマーサクセス室長

満 田 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 日曜劇場「御上先生」

第1話 1月19日(日) 21:00～22:19放送

最終話 3月23日(日) 21:00～22:19放送

(2) その他

2. 報告事項

(1) 番組種別公表制度に基づく、

2024年10月～2025年3月までの放送実績について

3. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声

(2) 次回審議会の議題及び日程

【審議番組について】(日曜劇場「御上先生」)

東大卒のエリート文科省官僚・御上孝は、私立高校への出向が命じられ高3の担任として自ら教壇に立つ。未来を夢見る子どもたちが汚い大人たちの権力によって犠牲になっている現実には、“官僚教師”と令和の高校生たちが共に立ち向かう、教育のあるべき真の姿を描く大逆転教育再生ストーリー。

御上先生を演じた松坂桃李は日曜劇場初主演、オーディションで選出された生徒役29人には期待の若手キャストが集結。

「報道の自由」「教科書検定」「生理の貧困」「ヤングケアラー」など様々な社会問題に生徒たちが向き合い考え行動していく、これまでとは一線を画した新たな学園ドラマとなった。

【委員の主な意見】

- TBSには学園ドラマを開発していく伝統があるが、今作は少し毛色の違う新しい領域を開発しようとした、その意気込みを感じた。生徒たちが多様な問題を抱えていることが、彼らを分け入ることで、なおかつ御上先生がフラットに話をすることで見えてくるところが面白い。
- 力作だと強く感じた。チープではない絵作りに、丁寧にやるぞ、この世界のリアリティを出すぞという意欲が感じられた。陰影の入り方が重厚で、御上先生の不穏なムードが光の感じで出せていて効果的だった。
- 中だるみするドラマが多い中、むしろ3話から7話くらいが神がかった印象。考える力＝論理的思考力であり、答えのない問いを考え続けること、これが未来そのものだという非常にすばらしいコンセプトだったと思う。

- 繰り返された「考えて」という台詞。最初から答えを示すのではなく、生徒自らが調べ、生徒同士・教師と対話を重ね、問題の本質に迫る仕立て。スマホやC h a t G P Tで「答え」がすぐ手にできる時代だから意味があった。
- 第1話で「上級国民の予備軍だ」という強烈な言葉があったが、エリートとは何かを納得させ、生徒たちも受け止め、その後否定することなく彼らが応えられるレベルを与えて導いていく、コーチングで学びになる伝え方だった。
- ラストで御上先生が渡り廊下を歩いて行くシーンに感心した。ドローンで引いていく映像への光の差し込み方など、わずか数秒のうちに考え計算して撮っていて、全編丁寧に作っていることが最後まで読み取れた。
- 登場人物の関係性を画面上で見せる効果・工夫が照明や演出で見られて心地よかった。ただ後半に行けば行くほど、ここはもう少し余韻を見せたらいいのと思うところが多々あり、急いでいる感と畳み込み感が否めなかった。
- 日本の教育を破壊するという設定に期待値が上がっていたので、結末はちょっと残念だった。例えば教科書検定で業者と文科省の癒着や汚職がありそれを暴くとか、検定システムそのものを見直すきっかけになった、という仕立てであればもう少し深さが出たのかもしれない。
- 誰もが自分事に落とし込んで考えられる現代の社会問題が抽出されていてインパクトがあったにもかかわらず、高校生という多感な時期に性とか恋愛とか友達同士の人間らしさが反映されておらず、すごく不自然に感じた。
- フィクションではあるが、社会的な問題への批判的視点など今の日本を描いたドラマであるという観点で言うと、冒頭の殺人事件はなくてもよかった。ややリアリティがなく不自然な感じがした。

- 殺人事件が個人的な反省や母との和解で解決してしまっていて、社会的・パブリックな文脈、何かしら政治的な訴えをしようとしたところが未消化のまま終わった。この事件は謎のままにして、学園ものを見せていく入り口として引っ張ってもよかったのでは。

【局からの回答】

- 放送終了から1ヶ月くらいかけて今作のトライがどうだったのか考えている中で、委員のご意見は分析と合致している部分が多かった。いろんなご指摘をいただいたが皆さんのお話を伺えてよかった。
- 学校のクラスで起こって解決した問題を、大人たちの問題とからめて解決するという最後を迎えることが今回必ずしもできず、それは反省点であって課題となった部分。社会問題を見せながら、大人のストーリーラインもつなぎながら、生徒たちの成長も見せながら、うまく10話に落とし込む、もっともったできたのではないか。これを糧として、また次に繋げられたらと思う。